

土壌インベントリ説明会（四国地区） 高知県四万十町黒石

記録

四国と九州の国有林調査の担当者を対象に説明会を行った。林野弘済会の四国支部と九州支部、高知県森林技術センターからの受講者は11人であった。会場は高知県森林技術センターの方にグレード1の調査地から選択していただいた。四万十町黒石の民有林で、実際のインベントリ調査予定地点ID390185である。午前10時に近くのドライブイン駐車場に集合した後現地に向かった。調査プロットは水田を取り囲む丘陵に位置し、高知県の山としては異例ともいえる緩傾斜で道路から近い林分であった。比較的若齢のヒノキ人工林であったが林内は明るく、下層は灌木が繁っていた。プロットの上部は一部にアカマツの枯死木と反対側の斜面から稜線を越えて侵入した竹が混じり、下部は広葉樹とスギが見られた。天気は快晴でこの季節としては珍しく暑い日となったが、林内は風が通り爽かであった。

午前中は、調査方法概要の説明の後、受講者全員でプロット内を移動しながら、調査手順に沿って枯死木調査法、炭素蓄積量調査地点の設定法、代表断面の設定法と断面作成法を説明した。中心杭がヒノキ林の緩い谷状の地形に設置されていたため、代表断面は地形と林相が同様の、斜面横方向の大円杭の外側に設置した。高知県林業試験場の担当する調査地点であるので、説明と併行して断面作成、試料採取も行われた。

午後は最初に堆積有機物採取と土壌試料採取の実演を行い、次に代表断面の前に集まり、断面記載法の説明を行った。傾斜が緩いため堆積有機物は一部で比較的多くH層もあった。A層は淡色で10cm程度と薄く、堅い塊状および堅果状構造が見られた。下層に埋没らしき暗色味のある層があり、腐植は比較的浸透していた。四国地方はしばらく無降雨ということで土壌は乾燥気味である。土壌型はBCと判定した（鳥居）。全体に礫が多く、下層は砂岩の大礫、表層は剪定鋏で切れる程度の腐朽礫が多かった。その後2人ずつに分かれてプロット外側で炭素量蓄積調査の実習を行った。堆積有機物層の区分と表層の円筒試料採取を1人ずつ体験した。時々体長15cm程度のムカデが現れて県外から来た講師を驚かせた。四国は礫が多く定体積試料を円筒で採取することが困難な場所が多いと予想されるため、最後に再び代表断面に集まり、ブロック試料の採取法を説明した。初めての円筒採取に苦労した参加者からは、ブロックの方が楽そうだとの声もあった。説明会は予定より若干遅れて午後5時過ぎに終了した。土壌調査は初めてという参加者が多かったため、断面記載の説明には多くの時間を要した。また、試料採取が予想以上に手間取ったとの感想もあった。しかし、参加者が実際に断面観察や、試料採取を経験したことによって、作業時間の目安等、今後の調査計画に有用な情報が得られたと考えられる。（相澤）



枯死木調査法の説明



炭素蓄積量調査地点の設定法説明



代表断面写真 BC



代表断面の説明

日時と場所

2006/10/25 (水)
高知県四万十町黒石

講師

森林総合研究所 高橋、吉永、相澤
同 四国支所 鳥居、篠宮、稲垣

参加者

高知県森林技術センター 宮田 藤本
林野弘済会四国支部 山本ほか
林野弘済会九州支部 久保田ほか